

国立公園にふさわしい別荘地とは？「五色沼くるみの森」の植物相

山口昌子（福島大・理工），首藤光太郎（福島大・院・理工），黒沢高秀（福島大・理工）

はじめに

1888年の噴火による泥流が押し寄せた磐梯山の北側に位置する裏磐梯地域は、その泥流上で新たな植生遷移が始まり、127年たった今もなお、植生遷移の進行途中にある。このような自然環境が織りなす生態系や景観は貴重であり、1950年には磐梯朝日国立公園に指定された。一方で、裏磐梯高原は全国的な観光地としても有名であり、五色沼湖沼群や檜原湖、秋元湖などの自然観光資源に加え、観光道路やスキー場、ホテルやペンション等が建設され、リゾート地化されている。2004年には、自然環境や歴史文化を体験し学ぶとともに、それらの保全に責任を持つ観光のありかたを示すエコツーリズムのモデル地区に指定された。このような国立公園などの地域では、開発する際に自然環境の保全との両立が必要と考えられる。

磐梯朝日国立公園内の「くるみの森」（図1）は、1970年代に開発され、現在は住民により自然環境を保ちながら整備、運営がなされている別荘地である。広範囲にわたる伐採や造成が必要であり、自然破壊を招きがちな一般的な別荘地とは一線を画している。敷地内では造成や伐採がほとんど行われておらず、1888年の磐梯山噴火によってできた岩屑流堆積物からなる泥流丘や湿地、アカマツやシロヤナギ等からなる陽樹林等の豊かな自然が残っている。このような別荘地は自然と調和した開発地の一つとして、自然と観光・産業の共生を考えるうえでモデルケースになる可能性があると思われる。本研究では、人の利用と自然環境の保全を両立させるモデルケースを提言するため、「くるみの森」の植物相調査を行った。

調査方法

2014年8月8日から2015年10月13日にかけて21回の植物相調査を行った。敷地内に生育する維管束植物を採集し、同定と証拠標本の作製を行い、福島大学共生システム理工学類生物標本室（以下FKSE）に保管した。また、FKSEで標本調査を行い、本調査地内から採集されたと考えられる標本のラベルデータを記録した。2014年の環境省版レッドデータブック、2002年の福島県版レッドデータブック、福島レッドリスト見直し中間案に掲載されている植物を保護上重要な植物とした。日本の帰化植物に掲載されている植物を帰化植物とし、帰化率を算出した。

結果と考察

本調査により524点の標本を採集し、391種の維管束植物を確認した。FKSEには、くるみの森から2012年から2015年に採集された標本が12点あり、12種を確認した。これらを合わせ、393種類（388種1亜種1変種1品種2雑種）の維管束植物の生育を確認した。

保護上重要な植物を湿地内から6種と林内から6種、計12種確認した。この種数は、これまでに裏磐梯高原で植物相調査が行われた五色沼湖沼群とその周辺や檜原湖東部に広がる森林や湖沼群等、裏磐梯地域のよく保護された地域と同程度であった（図2）。造成や伐採がほとんど行われず、本来そこに成立する自然環境が残っているためと思われる。他の別荘地の植物相はほとんど報告されていないため比較は難しいが、裏磐梯地域の良く保護された地域

と同程度の多くの保護上重要な植物が生育していることから、人の利用と自然環境の保全の両立が達成できていると考えられる。

帰化植物を27種確認し、帰化率は6.9%となった。現在裏磐梯地域で猛威を振るっているオオハンゴンソウとキショウブが確認され、適切な駆除が望まれる。

草地性の植物であるヤナギラン、オケラ、ヤナギタンポポを確認した。裏磐梯におけるこの3種の生育は過去に報告があるのみで、標本は採られていなかった。特にヤナギタンポポは福島県RDBには掲載されていないが、近年に採集された県内の標本が非常に少なく、希少な植物であると思われる。草刈りによる草地環境の維持が、今後も重要であると考えられる。

保護上重要な植物や草地性の植物を保全するため、住民が実行できる範囲での保全策が必要である。それぞれの植物に適した自然環境の維持や草刈り等の管理、モニタリング、盗掘の防止、植栽する植物の制限を行うことが望ましい。植栽を制限する植物に関しては、生態系被害防止外来種リストに掲載されている植物はもちろんのこと、繁殖力の強い園芸種や、在来種であっても他地域のものは遺伝的攪乱の原因となるため持ち込まないことが望ましい。

以上のことから、人の利用と自然環境の保全を両立させるためには、1. 開発を最小限に留め、本来そこに成立する自然環境を残すこと、2. 草刈りを行い草地環境を維持すること、3. 保護上重要な植物の保全策を策定し、実践することがモデルケースになりうると考えられる。



図1. 本研究の調査地である、北塩原村にある「くるみの森」。

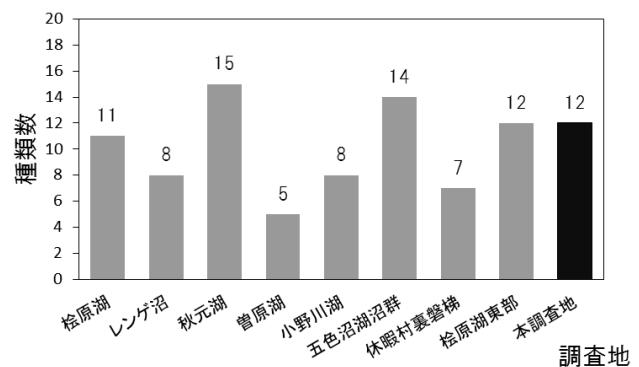


図2. 裏磐梯における他地域の保護上重要な植物数の比較。



エビネ(ラン科)



トキソウ(ラン科)



ミクリ(ガマ科)



テイネニガクサ(シソ科)

図3. 「くるみの森」に生育する保護上重要な植物の一部。

撮影：根本秀一氏